

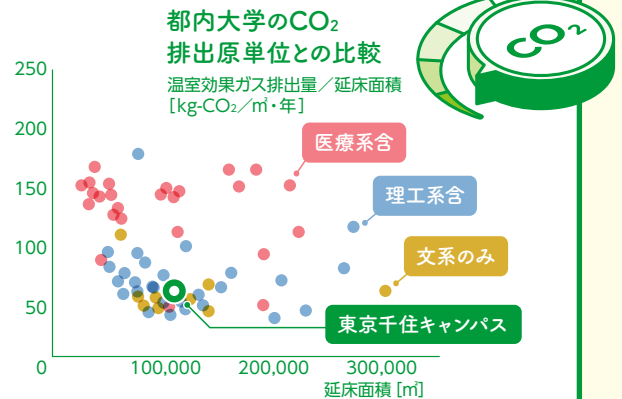
エコキャンパスの 「運用実績」

本キャンパスは学園創立100周年記念事業の一環として2012年度から運用を開始。計画・設計・施工を通しての徹底した省エネ対策により、大幅なCO₂排出削減、ピーク電力の抑制を実現。運用後も建物管理システム(BEMS)を活用して省エネ性能を継続的に向上しています。

実績1

CO₂排出量
都内大学の平均値の
約**22%**削減

大学の運用エネルギー消費に伴うCO₂排出量は、特に医療系や理工系の研究室などで大きくなる傾向があります。本キャンパスの運用実績値は、**都内の理工系を含む大学の平均値より約22%程度の削減となっています。**

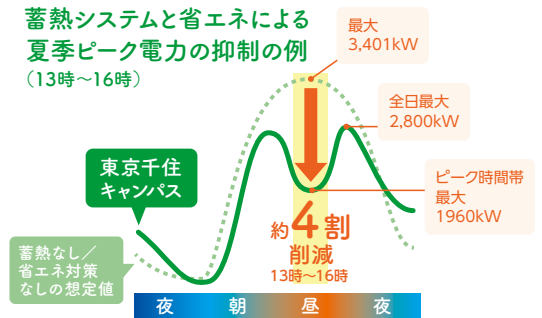


実績2

夏季
ピーク電力の
抑制
約**4割**削減

電力供給網(グリッド)による緊急節電要請の原因となる**電力需要(デマンド)のピークは、真夏の13~16時頃に発生**します。本キャンパスでは、蓄熱システムを利用することにより、**ピーク時間帯の熱源の運転を停止**できます。また、様々な省エネシステムも**デマンド抑制**に貢献しており、これらの取り組みで**ピーク時間帯のデマンドを約4割削減**し、電力料金の低減に大きく貢献しています。

蓄熱システムと省エネによる
夏季ピーク電力の抑制の例
(13時~16時)

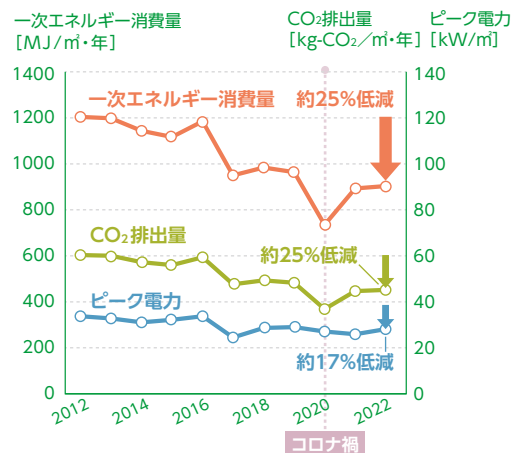


実績3

2012年からの
継続的な取り組み
により **さらに**
CO₂排出量
約**25%**低減
ピーク時の電力
約**17%**低減

本キャンパスでは、2012年4月の運用開始以降も、エネルギー利用・施設の利用、空調設備などの運転などの状況を常に監視して、最適な運転管理を行い省エネルギー・カーボンニュートラルへの貢献に取り組んでいます。その結果、**延床面積あたりの一次エネルギー消費量やCO₂排出量を約25%低減、ピーク時の電力を17%低減**しています。この継続的な省エネの取り組みにより、省エネ法の定期報告に基づく事業者クラス分け評価制度で、**8年連続でトップクラスであるSクラスの評価**を得ています。

運用開始後の継続的な省エネルギーの取り組み



東京電機大学は進化しつづけ、理工系総合大学として日本の技術社会に寄与し社会的役割を果たしていきます。

